

ソーシャルワーク論Ⅲ

担当教員 柿本 誠

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解できる。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術（介護保険及び障害者自立支援のサービス計画等を含む）について理解できる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ソーシャルワーク（相談援助）の援助関係の意義と概念を理解（利用者のベスト・インタレスト）。
2	ソーシャルワーク（相談援助）関係形成方法を理解（CO、のラポール、自己覚知）。
3	ソーシャルワーク（相談援助）の機能・役割の理解（SWのミクロ・メゾ・マクロの役割）。
4	インテークの意義、目的を理解（援助プロセスやSWの支援理論）。
5	インテークの方法、留意点を理解（マイクロカウンセリング等傾聴・共感等のスキル）。
6	アセスメントの意義、目的を理解（問題把握・ニーズ確定支援等・エコマップのスキル）。
7	アセスメントの方法、留意点を理解（事前評価から支援目標等記入のスキル）。
8	プランニングの意義、目的を理解（SWの援助計画、介護保険のケアプラン、ナラティブのスキル）。
9	プランニングの方法、留意点を理解（SWの援助計画、センター方式のスキル）。
10	説明と同意、及び各サービス計画を理解（ケアプランの作成と契約スキル）。
11	モニタリングと評価の目的、方法を理解（プロセス評価とアウトカム評価スキル）。
12	再アセスメントの理解（初期アセスメント・再アセスメント）
13	終結と効果測定の意味、方法を理解（支援プロセスの視覚化）。
14	アフターケア、予防的対応方法を理解（個別支援から地域支援、ソーシャルアクションのスキル）。
15	相談援助論の総合スキル。

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉士国家試験受験資格希望者は、必ず履修する。
2. この科目は平成22年度より、社会福祉援助技術論Ⅲが名称変更になり、「ソーシャルワーク論Ⅲ」となる。
3. 予習は、授業計画のテーマについて、テキストや文献等で事前に調べてくること。
4. 復習は、「授業の振り返り表」での疑問点や理解不足をテキスト等で再確認すること。

【評価方法】

出席日数（3分の2以上）があり、定期筆記試験（100％）により評価する。筆記試験の内容や評価基準は、国家試験の評定基準に準拠する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編『相談援助の理論と方法Ⅰ』新・社会福祉士養成講座⑦、中央法規出版。

【参考文献】

社会福祉士養成講座編『相談援助の基礎と専門職』新・社会福祉士養成講座⑥、中央法規出版。 ※1年の教科書